



北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY

令和5年度
北海道大学公開講座（全学企画）

社会変革の 実現に向けた 大学の役割

—SDGs 研究最前線



令和5年
6/8 木

7/27 木

[毎週木曜日]
18:30~20:00

募集定員
200名

オンライン配信
※ PC、タブレット、スマートフォンなど動画を視聴できる端末と回線が必要です。
受講料 全8回受講…4,000円
特定の回のみ受講…1回 1,500円

第1回 6/8 木	「サステイナブル・テロワール」 を目指して 農学研究院 教授 曾根 輝雄
第2回 6/15 木	最新研究からみえてきた 心身の健康と生物時計の関係 教育学研究院 准教授 山仲勇二郎
第3回 6/22 木	子どもと地域で創る 未来のサニテーション 保健科学研究院 教授 山内 太郎
第4回 6/29 木	コミュニティとつながる 未来につなげる文化遺産 アイヌ共生推進本部 准教授 岡田 真弓
第5回 7/6 木	循環型社会と脱炭素社会の統合的実現 ～物とエネルギーの循環～ 工学研究院 教授 石井 一英
第6回 7/13 木	未来をつくること： 気候中立と気候正義 地球環境科学研究院 教授 山中 康裕
第7回 7/20 木	地震・火山活動と 人間の暮らしを考える 理学研究院 准教授 大園 真子
第8回 7/27 木	北海道大学が取り組む SDGs サステイナビリティ推進機構 教授 加藤 悟



申し込み方法 ①北海道大学公開講座（全学企画）ホームページにアクセス
【<https://www.high.hokudai.ac.jp>】もしくは【右記のQRコード】
②申し込み方法、支払い方法の説明にそって、リンク先（外部サイト）にアクセスして申し込み

申し込み期間 5/11(木)～6/7(水) ※左記期間内に申し込み・支払いを完了してください。

問い合わせ 北海道大学学務部学務企画課総務担当
メールアドレス suishin@academic.hokudai.ac.jp



社会変革の 実現に向けた 大学の役割

—SDGs 研究最前線



昨今、グローバル化が進展し、世界の諸課題が顕在化するなかで、その解決に向けたSDGs（持続可能な開発目標）を達成するための取り組みがさまざまな国や地域で推進されています。そのような背景の下、社会のより良い発展のために大学が果たすべき役割がこれまで以上に問われています。北海道大学は、THE（Times Higher Education）が公表するインパクトランキング2022の総合ランキングで1406大学中10位を獲得し、国内外で注目を集めています。本講座では、このような北海道大学の「強み」を生かして、SDGsに関連するテーマの講演を幅広く設定し、世界で評価される北大の最先端の研究成果を社会と共有します。



第1回 6月8日 ㊦

「サステナブル・テロワール」 を目指して

現在、北海道のワイナリーは55を数え、各地に広がっています。ワインの持つ、地域の個性=テロワールを持続可能にするパワーについて、北海道のワインの歴史、現状、北大での研究や道の取組みを交えて紹介します。

農学研究院
教授

そね てるお
曾根 輝雄

1992年北海道大学農学部卒業。1997年同大学院農学研究科修了。博士(農学)取得。博士研究員(ブリティッシュコロンビア大学)、日本学術振興会特別研究員(北海道大学)、北海道大学大学院農学研究科助手、講師、准教授を経て、2016年より現職。北海道ワインのヌーヴェルヴァーク研究室、学内共同プロジェクト拠点北海道ワイン教育研究センター代表。



第5回 7月6日 ㊦

循環型社会と脱炭素社会の統合的実現 ～物とエネルギーの循環～

廃棄物は、放っておくと環境に悪影響を及ぼす迷惑ものですが、有効な資源として利用すると循環型社会だけでなく、脱炭素社会にも繋がります。物とエネルギーの循環の観点から地域が生まれ変わる必要性について考えます。

工学研究院
教授

いしい かずえい
石井 一英

北海道大学大学院工学研究科衛生工学専攻修了、2018年より現職に至る。廃棄物管理、特にバイオマスの利活用システム構築が専門であり、要素技術の開発から地域での社会実装を手がける。現在、農工水連携組織であるロバスト農林水産工学国際連携研究教育拠点代表も務める。国(環境省、農水省)や北海道などの委員、NPO最終処分場技術システム研究協会理事など務める。



第2回 6月15日 ㊦

最新研究からみえてきた 心身の健康と生物時計の関係

私たちの脳内には、約24時間の時を刻む超高性能な時計(生物時計)が存在しています。生物時計の仕組みから心身の健康を維持するための生活習慣がわかってきました。最新研究から明らかになった毎日を健康に過ごすためのコツをお伝えします。

教育学研究院
准教授

やまなか ゆうじろう
山仲 勇二郎

2008年北海道大学大学院医学研究科博士後期課程修了。博士(医学)取得。2008年北海道大学大学院医学研究科博士研究員、2009年北海道大学大学院医学研究科光バイオイメージング部門特任助教、2010年北海道大学大学院医学研究科助教、2016年4月より現職。専門は、時間生物学、睡眠科学。



第6回 7月13日 ㊦

未来をつくること： 気候中立と気候正義

早急に気候中立にしなければ全球平均気温上昇は1.5℃に抑えられませんが、各国が表明したCO₂削減量では2.7℃となってしまいます。積極的に対策しないことは、気候正義として、次世代や途上国への人権侵害と考えられるようになりました。

地球環境科学研究院
教授

やまなか やすひろ
山中 康裕

1991年東京大学大学院修士課程修了。同年東京大学気候システム研究センター助手。1995年東京大学博士(理学)。1998年北海道大学大学院地球環境科学研究科助教。ノーベル物理学賞を受賞した真鍋淑郎博士の下でグループリーダーを兼務。2010年より現職。学問領域・職域・地域・世代を越えて自ら学び、社会と対話する教育者。



第3回 6月22日 ㊦

子どもと地域で創る 未来のサニテーション

アフリカ、東南アジアの都市スラム、日本の山村において、子ども、地域社会、研究者と一緒にサニテーション(SDG6:安全な水とトイレを世界中に)の仕組みを創っていく取り組みについて紹介します。

保健科学研究院
教授

やまうち たろう
山内 太郎

1998年東京大学大学院医学系研究科博士課程修了(保健学)。2013年より現職(保健科学研究院・教授)。2018年から2022年まで総合地球環境学研究所・教授を兼務。2022年より北海道大学環境健康科学研究教育センター長を兼務。人類進化と環境適応に基づく健康、サニテーションの調査研究を世界の地域社会で行っている。



第7回 7月20日 ㊦

地震・火山活動と 人間の暮らしを考える

日本列島に住むと、SDG11「住み続けられるまちづくりを」考えるうえで、地震・火山活動などの自然現象と自ずと関わることになります。これらの最前線の研究事例を通して、我々の生活との関わりについて考えてみることにします。

理学研究院
准教授

おおの まこ
大園 真子

鹿児島県出身。2011年東北大学理学研究科にて博士(理学)取得。2011年から北海道大学にて博士研究員、2013年から山形大学理学部に講師、2016年から北海道大学大学院理学研究院にて講師を経て2019年から現職。主に地殻変動の観測研究から地震や火山に関する現象の解明や理解に取り組んでいる。



第4回 6月29日 ㊦

コミュニティとつながる 未来につなげる文化遺産

今日の文化遺産マネジメントにはその価値の保存・活用のみならず、教育やまちづくりといった新たな分野への貢献が期待されています。文化遺産と多様な接点を持つコミュニティの取組を紹介しながら、新しい文化遺産マネジメントのひろがりについて考えます。

アイヌ共生推進本部
准教授

おかだ まゆみ
岡田 真弓

慶應義塾大学大学院文学研究科修了。博士(史学)。北海道大学アイヌ・先住民研究センター博士研究員、観光学高等研究センター准教授を経て2022年より現職。専門はパブリック考古学、文化遺産論。現代社会において歴史的な文化遺産がどのように解釈され、活用されているのかを様々な角度から研究している。



第8回 7月27日 ㊦

北海道大学が取り組むSDGs

2015年9月に採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」内の17のゴールと169のターゲットで構成されたSDGsを、北海道大学では第4期中期計画に掲げ推進しています。SDGsの理念と北大での取り組みの現状について解説します。

サステナビリティ推進機構
教授

かとう さとる
加藤 悟

1994年大阪大学大学院工学研究科博士前期課程修了(修士(工学))。1997年東京大学大学院工学系研究科博士課程修了(博士(学術))。東京大学助手、財団法人政策科学研究所主任研究員、大阪大学准教授、名古屋産業大学教授、京都経済短期大学学長などを経て、2021年11月より現職。